

経営比較分析表（令和3年度決算）

鳥取県南部町 西伯病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド訓	救へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
10,503	15,798	-	第2種該当	15 : 1

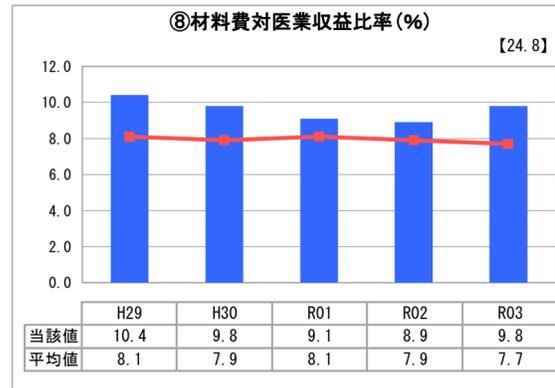
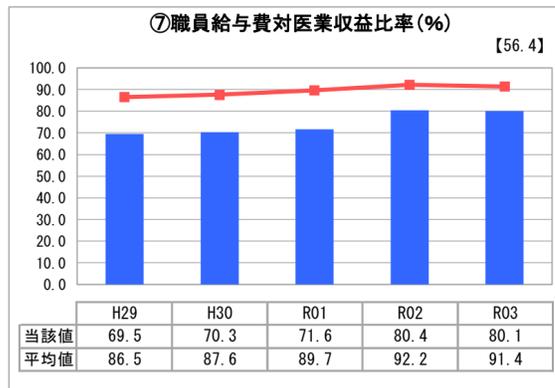
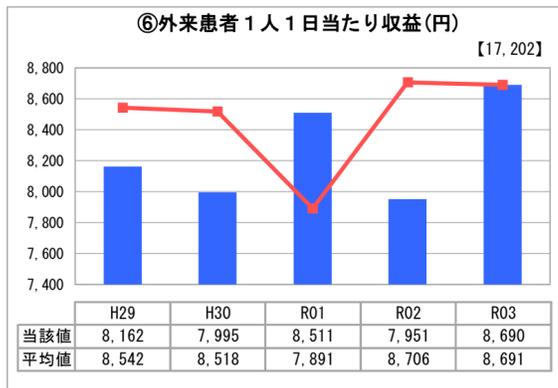
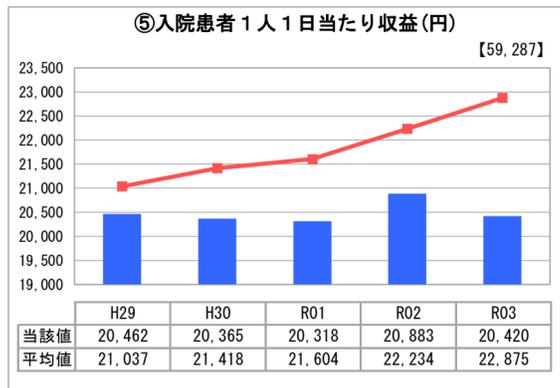
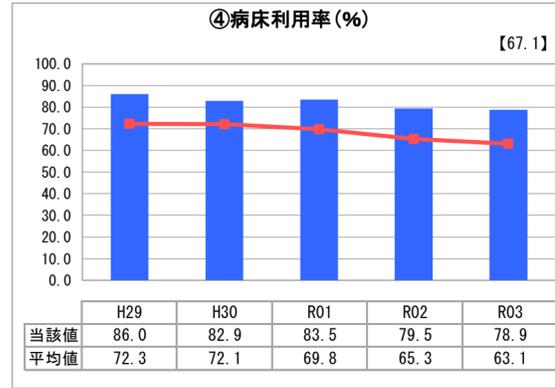
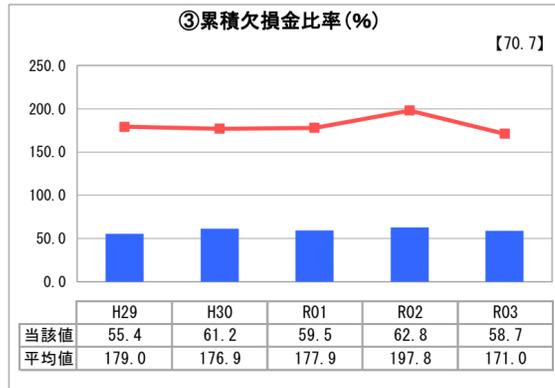
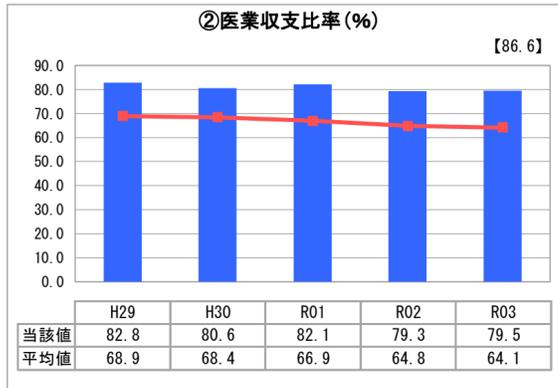
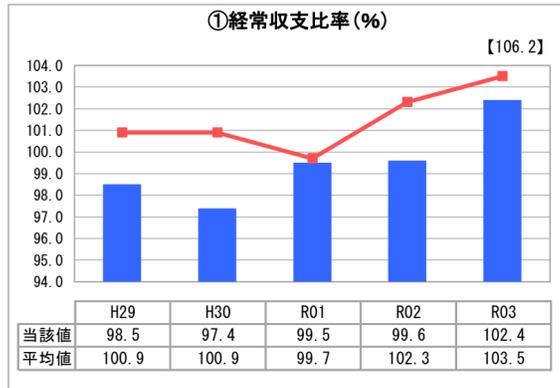
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

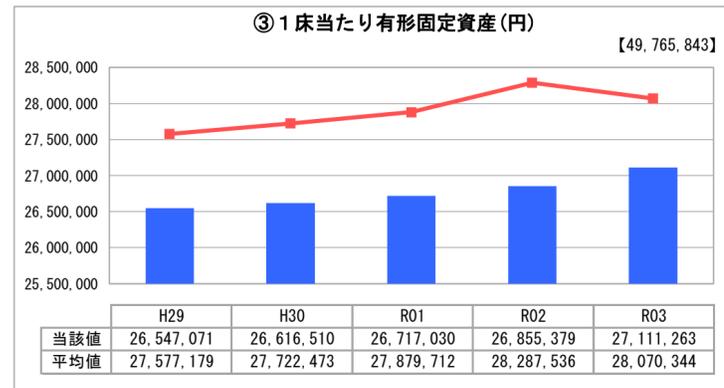
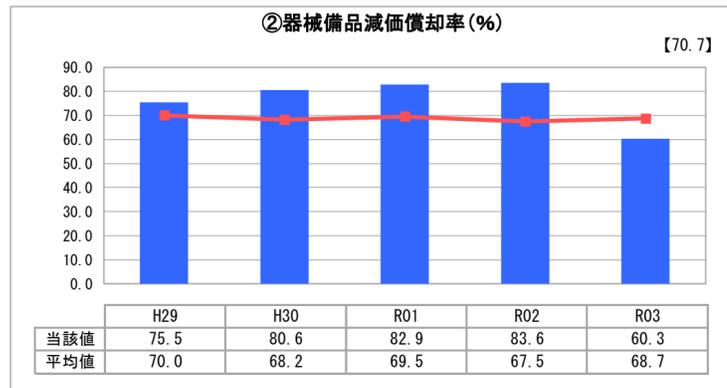
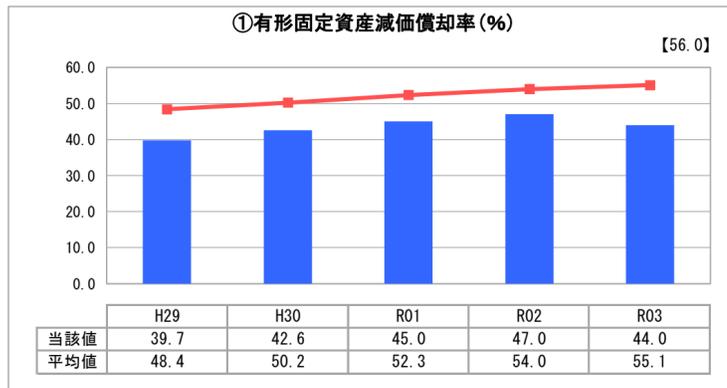
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
49	50	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
99	-	198
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
49	48	97

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

急性期から療養期まで、幅広い病期の患者受入れ体制を構築し、地域に根ざした医療提供を行い、地域住民への安心の提供を行う体制を維持している。

また県内唯一の精神科を有する町立病院として、精神科医療に貢献し、特に精神疾患患者等の身体合併症患者の受け入れや認知症高齢者への訪問診療に取り組んでいる。

令和3年3月に、県からへき地医療拠点病院の指定を受け、準無医地区を中心とした過疎地域における医療の提供を担い、地域医療の確保に努めている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

自治体が運営する精神病床を有する病院が近隣にないことから、同種の病院区分平均より病床利用率は高くなっているが、採算確保が困難な医療を提供しているため、一般病院と比較すると医業収支比率は低くなっている。特に精神科においては入院患者の病態変化や精神障がい者の地域移行が進んでおり、病床利用率が減少傾向にある。

また、併設する一般病床・療養病床の入院患者数および外来患者数については、人口減少や予防医療、保健事業による健康増進施策の展開等により減少傾向にある。特に、新型コロナウイルス感染症のための確保病床や受診控えの影響が続いており、入院患者数、外来患者数ともに減少している。

2. 老朽化の状況について

平成17年に病院を改築し15年が経過していることから、施設全体の1床当たり有形固定資産については、平均に比べ低い数値となっている。

器械備品については、令和3年度に電子カルテシステム等の高額な医療機器を整備したことから、器械備品減価償却率、有形固定資産減価償却率ともに前年度より減少している。

医療機器の耐用年数を超えているものがあるが、可能な限り修繕等に対応している状況に変わりはない。

全体総括

新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、昨年度に引き続き入院・外来患者数ともに減少した。人口減少、精神障がい者の地域移行による病床利用率の減、予防医療や保健事業による健康増進施策の展開により今後も病床利用率の改善は厳しい状況である。

救急告示病院やへき地医療拠点病院として地域医療を確保するための重要な役割を継続して果たすために、当院が地域から求められている機能は何か、果たすべき役割は何かを町と緊密な連携を図りながらしっかりと検討し、介護療養病床の機能転換を含めた病院全体の病床機能のあり方や、中長期にわたる経営の安定化のための経営強化プランの策定を目指す。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。